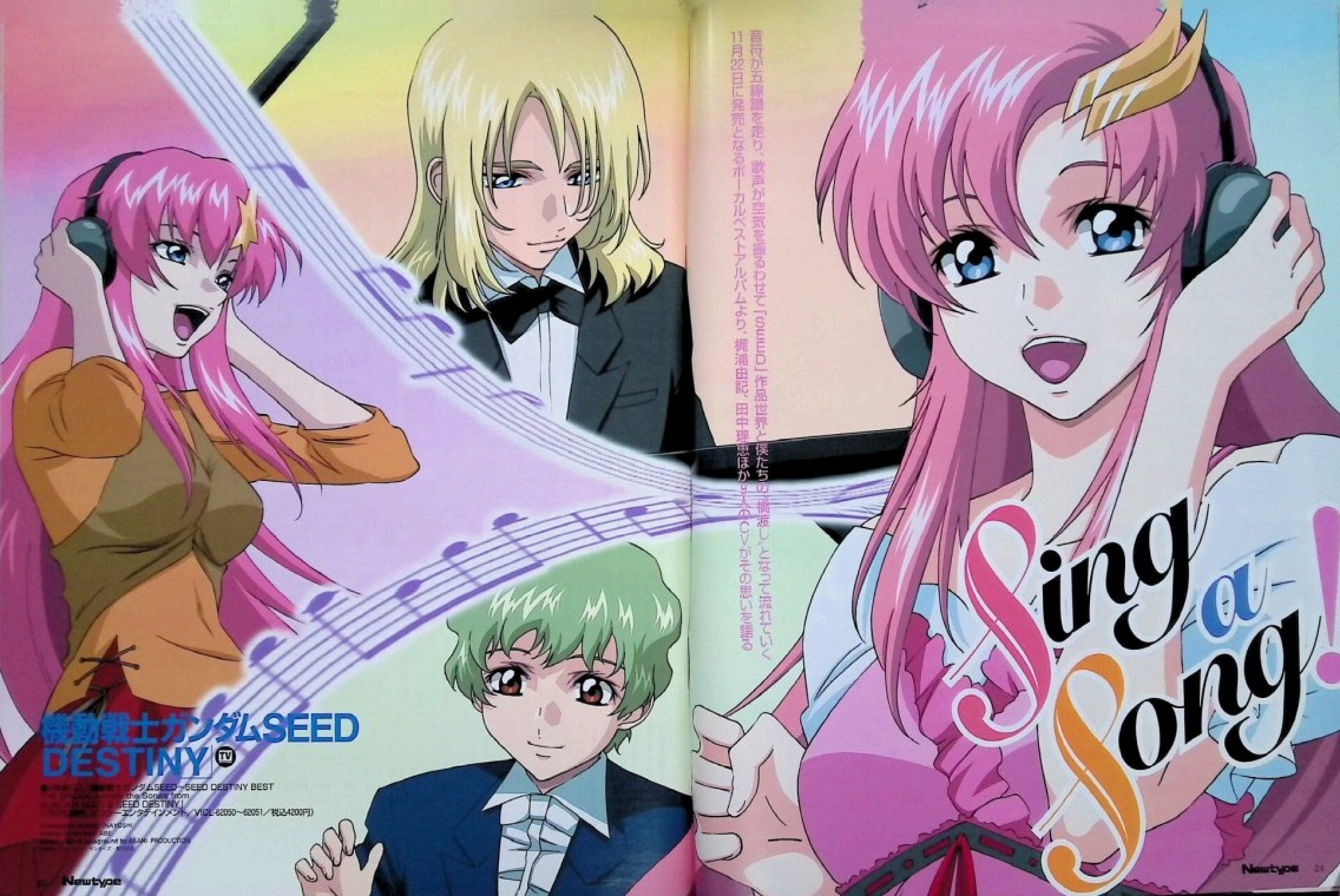
Sing a Song!

音符が五線譜を走り、歌声が空気を振るわせて「SEED」作品世界と僕たちの"橋渡し"となって流れていく
11月22日に発売となるボーカルベストアルバムより、梶浦由記、田中理恵ほか9人のCVがその思いを語る



機動戦士ガンダムSEED DESTINY TV

●…ンダムSEED～SEED DESTINY BEST
…the Songs from
…SEED DESTINY」
…ーエンタテインメント／VICL-62050～62051／税込4200円）

…ground by ASAHI PRODUCTION

The BRIDGE between SEED

「SEED」「DESTINY」を通して数々のボーカル曲を手がけてきた梶浦由記。彼女の目から見たこの数年間のSEEDへの作曲活動を振り返る



●音楽家
梶浦由記

●かじうら・ゆき／'93年、ユニットSee-Sawでデビュー。その後、ソロ活動を開始。'03年、1stソロアルバム『FICTION』を日米で発売。今月22日には『THE BRIDGE』とともに、ソロプロジェクトFictionJunction YUUKAの新曲『荒野流転』もリリースされる

[illegible] illustration by HISASHI HIRAI
[illegible] by AKIRA ENDO
©創通エージェンシー・サンライズ・毎日放送



[illegible]はイメージです。[illegible]ジャケットを使用してはおりません。



「君は僕に似ている」はあっという間にできてびっくりした曲です

『機動戦士ガンダムSEED』と『SEED DESTINY』の主題歌、挿入歌、キャラクターソングといった所縁のある曲を集めた2枚組アルバム『THE BRIDGE』が11月22日にリリースされる。そこに収録された曲の中でも、See-Sawの「あんなに一緒だったのに」をはじめ、多くの楽曲を制作し、両作品に深くかかわってきた梶浦由記に、当時の思い出や曲について聞いた。

「私の曲に関しては、もともと作品自体がとてもドラマティックで、戦いも死もあって、情緒の変化も激しいので、メロディ的にもアレンジ的にも、情緒性を出すことに随分気をつけてつくっていましたね。あと『DESTINY』のときは少し大人っぽさを意識して出すようにしたほうがいいのかなって考えていたような気がします。キャラクターたちも大人になっていて、"あんなに子供だったのに"って思っていましたから（笑）」

こうして誕生した曲の数々。そのいくつかでは、彼女自身が歌詞も書いている。

「ことばが乗る歌詞は、すごくストレートに伝わるので、曲をつくるとき以上に神経質になるんですよ。それはオープニングやエンディング、キャラクターソングにかかわらず。だから、歌詞を書くとなると、作品もすごく気をつけて見るし、本から資料から手もとにあるものは何でも読みますね。正直いって、曲だけのときはそこまでやらないんですけど（笑）。それだけに、やっぱり歌詞を書いた作品って、どこか愛着が違っていて……。特に、この作品では挿入歌とかの歌詞も書かせていただいているので、よりいっそういろんな思い出が浮かんできちゃいますね」

とりわけ深く考え込むキャラクターソングは、それゆえ、思い入れも強いそうだ。

「歌詞を書く前に、そのキャラについて、いろいろ考えるんですよ。たとえば、カガリってキャラはどういう人で、ふだんは何を考え、どんなことを思っているのかとか。そういうふうに考えを巡らせて歌詞を書くと、アニメのキャラクターなんだけど、なんか身内みたいな感覚になっちゃってて、アニメを見ても、カガリのことがすごく気になったりしてしまうんですよね」

こんなふうに、作品のもつカラーだったり、キャラクターの個性だったり、彼女の曲づくりに影響することは本当に多様だ。それらと同様に、影響力のあるのが、歌う人。

「歌う人によって、メロディが変わってきちゃったりすることもあるんですよ。たとえば『Life Goes On』の有坂美香さんなら、彼女はすごいパワーボーカルだったので、あのパワー感はなんとか出したいなと思っていましたし……。See-Sawの曲も、YUUKAの曲も、桑島法子さんの曲もそれぞれボーカルの特徴が違うので、そこは意識してつくっていましたね」

収録曲全24曲のうち、実に10曲を手がけている彼女。そこで、いちばん苦労した楽曲を尋ねてみたところ、関智一が歌うイザークのキャラクターソング「Shoot」という答えが返ってきた。

「苦労したわけじゃないんですが、男性ボーカル曲を私はあまり書いたことがないので、男性が歌うとどうなるのかなって、ちょっと悩んだんですよ。でも、イザーク好きだったのですごくうれしくもあり。なので、キャラクターソングの歌詞はあまりベタにしない主義だったんですが、『Shoot』はめちゃくちゃベタにして。こんなこと言っちゃいけないかもしれないけど、自分でも"プッ"と噴き出すくらい楽しかったですね」

この曲のように悩みながらも今は思い出深いのが、初めて『SEED』にかかわった「あんなに一緒だったのに」と、FictionJunction YUUKAの始まりの曲「暁の車」。

「最初って、手探りのところがあって、時間がかかったり悩んだりしたぶん、印象が強いんですね。だから、この2曲は思い入れがあります。逆に、ものすごくあっという間にできてびっくりした覚えのあるのが『君は僕に似ている』。See-Sawのエンディング曲はどうしようかなと思ったとたんできちゃった曲で……。1年に2～3回あるんですけど、頭の中で突然流れはじめて、メモし終わった時点でできていたみたいな（笑）」

これらの曲をまとめるように、いろんなものがつながっている、という思いを込めて『THE BRIDGE』とディレクターによって名づけられた今回のアルバム。

「作品は途中ブランクはあったものの約4年続いたんですよね。第1回のとき16歳の人なら、20歳になっているわけで。それだけ長い間、離れたり、忘れたりすることがあっても、つきあってきたと思うので、作品の4年と自分の4年を振り返りながら、聴いていただけると思うんですよ。そういうふうに懐かしんだり、新しい発見をしたりして、いろんな聴き方で楽しんでほしいですね」

進藤尚美

この歌はなんと作詞までさせて頂いたという、本当に思い入れのある曲です。不慣れな私にとっては難しい歌でもあったのですが、「キャラをそんなに意識して歌わなくてもいいよ」とお許しを頂き、緊張しながらも頑張ってレコーディングしたのが、今では懐かしいくらいです。また皆さんに聴いて頂けるなんて嬉しいですね。

関智一

僕が歌わせて頂いた「Shoot」という曲は、応援して下さっているファンの皆さんからもとても好評を頂いています。僕自身も思い入れのあるイザークの歌ということで、とても楽しく歌わせてもらった記憶が残っています。今回初めて聴かれる方も、気に入って頂けたらとても嬉しいです。

森田成一

この曲を制作するに当たり何よりも嬉しかったのは、楽曲作りにゼロから参加出来たことです。歌詞では僕の考えるキーワードとなる言葉を随所に使って頂き、曲調も切ない子守唄のようなバラードにして頂きました。コンセプト出し程度のものですが、その分、等身大の自分で歌えたと思います。

折笠富美子

スタッフさんや豊口さんとノリで話していたことが企画となり歌わせていただいた奇跡のような曲です(笑)。本編では2人のキャラクターは会話することはなかったので、この曲で共演できてうれしかったです。ありがとうございました。

『THE BRIDGE』収録曲

あんなに一緒だったのに／See-Saw
Life Goes On／有坂美香
暁の車 piano supplement version／FictionJunction YUUKA [初CD化]
深海の孤独／桑島法子
焔の扉／FictionJunction YUUKA
tears ～full version／lisa
君は僕に似ている／See-Saw
ORIGINAL SOUNDEFFECT TRACK ～MEMORY～ [新曲]
あんなに一緒だったのに2006／See-Saw [初CD化]
今 この瞬間がすべて／キラ・ヤマト（保志総一朗）
静かな夜に／ラクス・クライン（田中理恵）
Precious Rose／カガリ・ユラ・アスハ（進藤尚美）
Shoot／イザーク（関智一）
Nicol's Piano 涙のテーマ／佐橋俊彦（インスト）
氷の証／ラクス・クライン（田中理恵）
Primal Innocence ～Bridge version／シン・アスカ（鈴村健一）[初CD化]
Eden of necessity／スティング・オークレー（諏訪部順一）
Pale repetition／アウル・ニーダ（森田成一）
Quiet Night C.E.73／ミーア・キャンベル（田中理恵）
EMOTION／ミーア・キャンベル（田中理恵）
REY ZA BURREL'S PIANO [illegible]／佐橋俊彦（インスト）
Please／メイリン・ホーク（折笠富美子）＆ミリアリア・ハウ（豊口めぐみ）
Fields of hope／ラクス・クライン（田中理恵）
TOMORROW／キラ・ヤマト（保志総一朗）

桑島法子

梶浦さんのオケに圧倒されそうなレコーディングでした。悲しいけれど、とても素敵な曲で、作品の中でも効果的に使っていただけて幸せでした。皆さんの記憶にちょっとでも残る一曲になったら、嬉しいな。

保志総一朗

スーツCD、始まりと終わりのこの2曲。戦う理由も分からないまま、迷いながらも戦うキラ。そして、自分のやるべき事を見つけ、未来（あした）を見据えるキラ。どちらも間違いなくキラの曲です。SEED、DESTINYを通して色々な思いのある中、自分にとって大切な2曲になりました。

鈴村健一

皆さんからいただいたこの曲の感想の中に「シンの心の中に触れた気がする」というものがありました。実はガンダム本編ではあまりモノローグを使ったシーンがなく、キャラクターの行動や言動から心情を読みとってもらえるように芝居してあったのです。シンが自分の心の叫びを歌ったこの曲が彼のモノローグとして皆さんに受け取ってもらっていることがとても興味深いです。

諏訪部順一

私が思っていたスティング・オークレーのイメージと全く異なるこのソング。お聴き下さったみなさんから「そうなんだー」と思えるような感想をいただいたりして、色々な意味で勉強になりました。

豊口めぐみ

この曲は——というか、このユニットは、まだデスティニー[illegible]、[illegible]にキタンを食べている[illegible]にできたんです。[illegible]でおなじみのビクターの方にプレゼンしました(笑)。それがまさか形になるなんてっ!? しかも、ユニット名「ブリーズ」って!? よくみたら、曲のタイトルも「ブリーズ」かいっ!? [illegible]ではからみのなかった二人でしたが、色んなかたちをかりて、形になりました!! [illegible]に感謝です。

The Singing Beauties

SEED世界と音楽との"橋渡し"の一翼を担っていた田中理恵
自身が演じたラクス、そしてミーアの歌声の秘密を聞いた



●ラクス・クライン&ミーア・キャンベル役
田中理恵

正反対の2役のキャラクターソングは、癒し系&元気印

ラクス・クラインとミーア・キャンベルの2役を演じた田中理恵。アルバムにはもちろん彼女の歌うキャラクターソングも収録。その数5曲と収録曲の中で最多だ。

「女神のようなラクスと、明るいミーアという正反対のキャラを演じるのは難しかったですね。私自身がいちばん好きな歌はラクスの『静かな夜に』。これは『SEED』のアフレコに入る前にレコーディングしたんですよ。デモテープを聴いたときにすごくいい歌だな、ちゃんと歌い上げたいなと思ったのを覚えています。全宇宙の人たち、戦いで傷ついた人たちの心を癒してあげたいというイメージで歌いました。『水の証』も癒し系ですね。ラクスの歌は、詞が深くてことばのひとつひとつが大事。聴く人を包み込むような楽曲が多いので、気を張って一生懸命歌うというよりも、自分自身がリラックスして歌ったほうがいいと思ってボーカル録りに臨みました。スタジオにノドをリラックスさせるためのハチミ[illegible]れて飲んだりして(笑)」

ヒーリング曲が好きでふだんから聴いているという彼女。音楽に癒し効果があることを肌で感じているだけに、自身がそうした楽曲を歌えたことが、とてもうれしかったと語る。

「川の流れる音だけを収めたCDやインストのみのCDを、寝る前にパソコンでかけて、そのまま朝まで寝ちゃったりすることもあります(笑)。人を癒せる曲を自分でも歌えたらいいなと思っていて、ラクスを通してそうした楽曲に出会えたことをとても感謝しています。もともとバラードは聴くのも好きだし歌うのも得意。それだけにミーアの飛び跳ねるような楽曲は、自分にとってかなり挑戦でしたね」

ミーアの歌う「Quiet Night C.E.73」や「EMOTION」はハイテンションのアップチューン。元気で明るいキャラにピッタリな楽曲で、イベントなどで歌うことも。ファンがいっしょにジャンプしながら歌ってくれる、盛り上がりには欠かせない歌だという。

「『Quiet~』はスタッフからアイドルっぽく歌ってみましょうと言われて、『うん!』とか『イエイ!』とか[illegible]かわいらしいことばをいろんなところにちりばめてみました。細か~い演出がいっぱいある曲なんですよ。ミーアの歌は、音符がポンポンポンと出てくるような軽快な曲が多いので、ステージで動きながら歌うと息切れしちゃうくらいです(笑)。私から見たミーアはめげない女のコ。『偽物なんだけど今は私が本物よ、だから今を精一杯生きるの』っていう感じですかね。彼女の元気さやひたむきさを歌に出せたらいいなと思って取り組みました。『EMOTION』もとっても明るい曲なんですけど、私はこの歌を聴くとちょっと悲しくなるんですよ。TV本編では、ミーアの軌跡をたどるシーンで流れていて、泣いちゃいましたね。『SEED』ではうれしいとか悲しいだけではくくれない、いろんな感情について学びました。ミーアはMSに乗ったりしないけれど、生きる姿は壮絶だったと思う」





そして終盤に収録されている「Fields of hope」。スケール感のある曲調をしっとりと歌い上げたこの曲も、彼女にとって思い出深いナンバーだ。

「壊れていくものを再生していくイメージかな。『DESTINY』では、戦いでプラントが壊れていくシーンで流れていたりするんですけど、そういう悲しさ、つらさを少しでも和らげてあげたいというか……。何て言っていいのか、難しい……ヘタなことを言えない深さがあるから。ラクスの歌はひとつの側面だけをとらえたものではなくて、いろんな想いや気持ちが複雑に絡み合っている。だからこそみんなに[illegible]もらえるように、大切に歌いました。でも実はこの歌は、ミーアも劇場シーンで歌っているんですよ。歌を聴いているといろんなシーンが思い出されますね」

彼女はふだんからSEEDやガンダムにちなんだ音楽を入れてよく聴いているという。彼女の中での名シーン&名曲は、『SEED』のラクス初登場シーンで流れる『静かな夜に』だ。

「FictionJunction YUUKAさんやSee-Sawさんの歌もよく聴いていますよ。今回は今までの楽曲がひとつにまとまったアルバムという形で発売されるので、改めて『SEED』の世界観や思い出のシーンを思い返すきっかけになってくれたらうれしいですね。それぞれのキャラクターソングもあるので、物語ではなくなってしまったスティングやアウルやステラを偲んでもらったり。みんな歌を聴きながら、泣いちゃうんじゃないかな。私にとって『SEED』『DESTINY』は声優としても歌手としても、多くのことを学ばせていただいた作品。悔いのないように演じようと、真剣に取り組んだアニメなので、アルバムを聴いていると、そのとき、そのときの自分の姿が思い出されます」

illustrated by HIROMI MAEZAWA
finished by HIROKO SATO
shot by AKIHIKO KYUKI
text by NAOKO KAWASAKI